

令和6年度 大野市地域医療協議会 会議概要

【日 時】 令和6年11月19日（火） 19：00～20：30

【場 所】 結とびあ 1階 保健センター

【会長、副会長の選任】 会 長 高井委員（大野市医師会）

副会長 尾崎委員（大野市医師会）

【協議報告事項】

（1）休日急患診療所及び和泉診療所の診療状況について【資料No.1、2、3】

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

（委員）

- ・和泉診療所の資料2において救急車の搬入搬出数とあるが、ドクターヘリの出動数は何件か。

（事務局）

- ・1件であった。

（委員）

- ・現場から直接搬送される件数は把握していないか。

（事務局）

- ・把握していない。

（委員）

- ・地区外とは市外の件数のことか。

（事務局）

- ・地区外とは和泉地区外のことである。

（会長）

- ・和泉診療所ではコロナ禍でも受診者数が減少していない理由は何か。

（事務局）

- ・診療を控える傾向はなく市内から受診する人もいたことによる。

（委員）

- ・歯科診療を廃止した理由は何か。

（事務局）

- ・歯科医師が定年となり、後継者を探したが見つからなかった。患者数が減少傾向にあり、中部

縦貫自動車道が開通し、市内（地区外）で受診することが出来るようになったことによる。

（委員）

- ・高齢者が受診できるのか。交通事情など少し問題が残ったと思う。

（２）奥越医療圏を維持するための取組みについて【資料No.4】

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

（委員）

- ・福井勝山総合病院の関わりを知りたい。

（事務局）

- ・福井勝山総合病院の院長も奥越地域医療構想調整会議の委員として話し合いに参加しており、情報共有および連携を取っている。

（委員）

- ・福井・坂井医療圏と統合すると、福井勝山総合病院がなくなるのではないか。

（事務局）

- ・そのようなことにならないように、奥越医療圏を維持する取組みを行っていく。

（委員）

- ・政府は入院から在宅医療への移行に取り組んでいるようだが、在宅医療は増加しているのか。それとも減少しているのか。

（委員）

- ・介護施設の入所者数が増加しており、在宅医療で看取ることは少ない。

（会長）

- ・介護施設で看取る体制が整ってきている。市内の介護施設が足りていることから、在宅で看取る件数は増加していない。

（委員）

- ・介護の診療報酬が増えているのでは。

（事務局）

- ・介護の必要量については、高齢化率が頭打ちとなっており、今後は減少すると考えている。

（委員）

- ・タクシーが早い時間に終了することから、遅い時間に診察に行くことが出来なくなっている。その点をどう考えるか。

(事務局)

- ・公共交通の見直しを行っている。また、住民同士の助け合いの中で、受診のお手伝いができる仕組みを作れないか取り組んでいるところである。公共交通の担当課と考えていきたい。

(委員)

- ・ライドシェアや住民助け合いの取組みのほか、県でもドライバーを増やす対策を行っているところである。

(3) 和泉診療所におけるオンライン診療について【資料No.5】

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

(委員)

- ・スキャンしてメールで送ることも難しいのか。

(事務局)

- ・時間がかかることと、個人情報のセキュリティー対策で難しいところもある。

(委員)

- ・近くで行きやすいこともあり実際に診察をしていただいた方が安心する。しかし、仕事をしている人は、上手に利用すると良いと思う。

(委員)

- ・専門医に診察していただいた場合の23,000円は診療所が支払うのか。

(事務局)

- ・県の補助事業であることから、現在は県が支払うこととなっているが、将来的にどうなるかは分からない。

(委員)

- ・23,000円の負担金は診療時間に関係なく、1日単価か。

(事務局)

- ・1日単価である。

(会長)

- ・これから需要が増えていくと思う。いろいろなことを検討をしていただいて、教えていただくとありがたい。

(委員)

- ・患者の負担はどうか。

(事務局)

- ・ 通信料として自費で500円いただいているが、診療報酬が少し低いため、地区外から通院される場合は、通信料を足しても通常の診察より費用負担は少ない。

(委員)

- ・ 今後も継続する予定か。

(事務局)

- ・ 実績をみて、コストに見合うかどうか考えていかなければならない。

(会長)

- ・ 歯科ではオンライン診療の試みはないのか。

(委員)

- ・ 歯科診療では無理である。

(委員)

- ・ 処方箋の扱いはどうなっているのか。

(事務局)

- ・ 院外処方箋により、近くの薬局に取りに行く形となる。処方箋については、診療所から薬局に送っている。和泉地区住民については、院内処方箋とし、看護師が患者宅に届けている。

(4) 熱中症対策に関する取組みについて【資料No.6】

○事務局：資料に基づき説明

○主な意見等

(委員)

- ・ 屋外の部活動における熱中症対策について教えてほしい。

(事務局)

- ・ 各学校による対応となる。暑さ指数3.1を超えた場合や熱中症警戒アラートが発表された場合は部活動は休止している。

(委員)

- ・ 大野市と福井市では対応が異なる。部活動を休止することにより、秋の試合に影響を出たことから、屋外での部活動に対して先生方から知恵をもらいたい。

(委員)

- ・ 奥越健康福祉センターの担当に確認させていただく。

(5) その他

(委員)

- ・ 中部縦貫自動車道が大雨や大雪になると通行止めになり、自然の影響を受けている。いろいろな場面でオンライン診療を活用できると良い。
- ・ 若い人に対する健康に向き合うためのプレコンセプションケアや葉酸補給について推進することは大事である。
- ・ 包括連携協定を締結している企業とタイアップするように努めていただきたい。
- ・ ファミリードクターを推進すると良い。

(事務局)

- ・ 包括連携協定の締結企業とのタイアップとしては、飲料水を配布するなどの取組みを行っている。
- ・ ファミリードクターについては、かかりつけ医の推進に取り組んでいきたいと考えている。